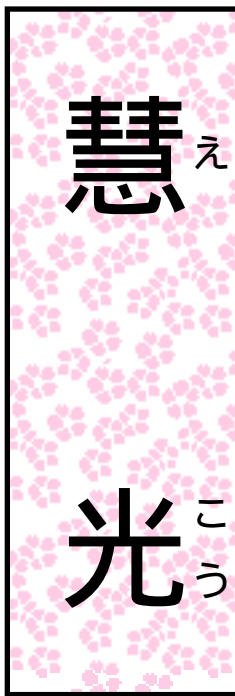




台風が過ぎた5日撮影、秋の花の代表 コスモス



金光寺寺報  
第184号  
発行所 金光寺  
宮崎県西臼杵郡  
五ヶ瀬町大字鞍岡  
5927番地  
0982  
83-2338

今月のことば

まどいの眼には見えねども ほとけはつねに照らします

今月の法語は、七高僧の第六祖、源信和尚を讃仰された「正信偈」本文、「煩惱障眼雖不見大悲無倦常照我」〔煩惱、眼を障へて見たてまつらずといへども、大悲、倦きことなくしてつねにわれを照らしたまふといへり〕についての意識です。

和尚が著した『往生要集』に「極重の悪人は、他の方便なし。ただ仏を称念して、極楽に生ずることを得」と浄土教における往生行の要点を示し、愚悪の人間が極楽に生まれる手だてはただ称名念仏するほかなきことを闡明にされたのでした。

愚悪の者とは、抜きがたい自己への執着心、我が身可愛いという自己中心の思いのやむことのない、われわれ人間のことで。和尚が自身を深く誠められた名聞利養の執心もそのあらわれであって、今月の言葉「まどいの眼には見えね

ども」とは、まさにそのような真理(智慧)に暗く煩惱に翻弄されながら苦悩していく、人間の有様を示されるのです。思い通りにしたいという我欲の心(惑)は、思い通りにいかぬゆえに怒りとなり、愚かしき言動となって表出(業)し、他を傷つけていくこととなります。そして新たな苦悩(苦)をさらによび起こしていきます。こうした無知の行為と結果が連鎖してとどまることなく循環していくという、そのことに無自覚であるゆえに愚悪といわれるのです。

親鸞聖人は、さわりなき仏光は苦悩の根元であるまどいを照破して必ず大悲心のうちに摂め取り、さとり浄土に往生させようとつねに信心の人を休むことなく怠りなく照らしもってくださる、といわれています。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

10月  
15日(土) 午後 後日  
16日(日) 終 日  
12月  
9日(金) 終 日  
15日(木) 終 日  
16日(金) 終 日  
22日(木) 終 日

2017 (平成29)年  
4月  
3日(月) ~ 5日(水)

仏教用語豆辞典

豆腐

寒いですね。湯豆腐が恋しくなります。豆腐といえば、高野豆腐、南禅寺豆腐、空也豆腐などと、何となく仏教に関係あると思いませんか。

せんか。豆腐が仏教語というわけではありませんが、豆腐は中国で作られ、入唐僧によつて日本に伝えられ、まず寺院に普及し、やがて、民間にも広まっています。なので、民間にも広まっています。ある食べ物なのです。僧は魚食肉食をしなかったの、大切な蛋白源として愛用しました。油揚げ、生揚げ、がんもどきなどの材料ともなります。また、同じように、日本に渡来したものに、味噌、納豆と饅頭があります。いずれも寺院から民間に普及

9月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2016年 9月26日寂 満90歳  
道の上 竹岡 フミカ 様

ホームページ開いています。  
URL <http://konkhoji.jp/>  
10月5日現在 アクセス数 78,035人

し日本化しました。味噌は中国の鑑真が伝えたといいわれ、納豆の初めは寺納豆と来日した中国人の弟子が製造した奈良饅頭が最初といわれています。仏教とともに渡来した食べ物 は数多くあるのです。さて、今夜は湯豆腐で一パイなど... (本願寺出版社発行 辻本敬順著 仏教用語豆辞典一〇〇 PART-1 から)

住職ひとりごと

四月から今月一日まで朝のひと時を楽しくしてくれたNHK朝の連ドラ「とねんちゃん」が終わりましたね。残念です。三日からは「べつびんさん」になりました。題名の「べつびん」、つまり、美人・美女という意味、漢字にすると「別嬪」かなと思っていれば、特別に良い品という意味の「別品」だそうなんです。後者は私の辞書にはありませんでした。今は主役を子役さんが演じているので、継続して視聴することになるか、まだ分かりません。今月号三頁下段に「恩講・秋参り」の日程を掲載しました。本年、ご自宅でお参りがなかつたお宅は私お参りのご縁は初めてになります。親鸞聖人のご遺徳を偲ぶとともに、とめる一年に一度のご縁です。どうぞ、日程をご確認の上、お仏壇を掃除し、お花を活け替え、できれば、一緒にお座りいただき、阿彌陀さまと親鸞聖人報恩の思いをと念ずることです。最後に一度のお願い、お花は生花で活け、造花は下げてくださいます。(住職 松井卓郎)

# 蓮の花のお徳2

相次ぐ台風の接近、幸い、鞍岡ではその影響もなくほつとしたことでしたが、全国的にはいたる所で大きな被害がありました。被災された方々にはお見舞い申し上げるばかりです。

さて、先月号で記載したとおり、今月は、福岡県願心寺ご住職、本願寺派布教使並びに仏教婦人会総連盟講師のなかがわきよあき中川清昭先生がお盆の施本(本願寺出版社発行)中「蓮の花に想う」と題して書かれた文章から「蓮の花の徳」四つの内、三番目と四番目を紹介します。(以下、原文のまま)

中国では蓮の花には四つの徳があるといわれています。この徳を浄土真宗の門徒の立場から考えてみます。

(一番目と二番目は先月号で紹介したので割愛)

三番目に「華果同時」(蓮の花は、花が咲いたときには同時に実をつけている)。これは、「歎異抄」に「弥陀の誓願不思議にたすけられぬらせて、往生をばとぐるなりと信じて念仏申さんとおもひたつこころのおこるとき、すなはち撰取不捨の利益にあづけしめたまふなり」(「注釈版聖典」八三一頁)とあるように、念仏申すという私達の宗教行為と、撰取不捨という利益が同時であることを表しています。今めぐまれたこのいのちを精いっぱい生きるということでしょう。

四番目には、「泥中君子」(「蓮は花より出でて泥に染まらず」と言われるように、汚れた泥の中から茎を伸ばし、

清らかな花を咲かす)。蓮の花は、真水のような清らかな水の中では小さい花しか咲かせず、泥が濃いければ濃いほど大輪の花を咲かすそうです。このことを親鸞聖人は、「教行信証」に「淤泥華」とは、「経」(維摩経)にのたまはく、高原の陸地には蓮華を生ぜず。卑湿の淤泥にはいまし蓮華を生ず。これは凡夫、煩惱の泥の中にありて、菩薩のために開導せられて、よく仏の正覚の華を生ずるに喩ふ」(「注釈版聖典」三一九頁)と示して、泥を私たちの煩惱にたとえられています。



(二〇一六年お盆の施本

「お盆」本願寺出版社発行 七(八頁)

以上、二月に分けて「朝開夕閉」「一茎一花(果)」「華果同時」「泥中君子」の四つの蓮の花の徳について紹介しました。

親鸞聖人は、「正信偈」に「一切善悪凡夫人 聞信如来 弘誓願 仏言広大勝解者 是人分陀利華」とお示しになっています。

最後の「分陀利華」とは阿彌陀仏の誓いを依りどころとして生きる人のことで、別の言葉で表すと「白蓮華」。多くの仏さまは「蓮台」すなわち蓮の花の台座にご安置されています。インドでは、蓮の花はお釈迦さまのおさとの象徴とされ、尊敬する人に差し上げる花だそうです。

煩惱にまみれた凡夫が、阿彌陀さまの誓いを依りどころとして生きていく、念佛の行者としてのご縁をいただく、「白蓮華」と親鸞聖人から最大の賛辞を賜ります。

# 法語の世界

## 〈原文〉

善従申され候ふとて、前住上人(実如)仰せられ候ふ。ある人、善従の宿所へ行き候ふところに、履をも脱ぎ候はぬに、仏法のこと申しかけられ候ふ。またある人申され候ふは、履をさへぬがれ候はぬに、いそぎかやうにはなにとて仰せ候ふぞと、人申しければ、善従申され候ふは、出づる息は入るをまたぬ浮世なり、もし履をぬがれぬまに死去候はば、いかが候ふべきと申され候ふ。ただ仏法のことをば、さし急ぎ申すべきのよし仰せられ候ふ。(蓮如上人御一代記聞書 百九十八)

## 〈現代語訳〉

実如上人が善従の逸話を紹介して、「ある人が善従の住いを訪ねたとき、まだ履物も脱がないうちから、善従が仏法について話しはじめた。側にいた人が、履物さえまだ脱いでおられないのに、どうしてそのように急に話し始めるのですか」というと、善従は、息を吐いて吸う間もないうちに命が尽きてしまう無常の世です。もし履物を脱がないうちに命が尽きたらどうするのですかと答えたのであった。何をあいても、仏法のことはこのように急がなければならないのである」と仰せになりました。

## 2016(平成28)年 恩講・秋参り日程(予定)のお知らせ

本年の恩講・秋参りの日程についてお知らせします。恩講の期日が未定の地区(倉本、古賀西、波帰)は早目に日程の相談をお願いします。秋参りは過去の状況を参考に大まかな予定をたてました。あくまでも予定です。葬儀、仏事や恩講が入りますと日程を変更します。遠方(熊本市、益城町、御船町、宇城市、高千穂町、延岡市、日向市、宮崎市)と中入・大平、渡瀬、山都町の秋参りは八ガキでお参りの日を連絡します。お茶の接待はご遠慮申し上げます。

恩講		秋参り	
10月	29日	10月	14日
11月	1日	10月	19日
	2日	10月	24日
	9日	10月	25日
11月	12日	10月	26日
	17日	10月	27日
	18日	10月	31日
	19日	11月	2日
	20日		
	22日		
	23日		
	24日		
12月	4日		